



南部町立南部中学校 学校だより 第23号

# チーム南部中

令和3年 2月25日(木)  
校長 望月和彦

## 『3年生を送る会』

2月22日(月)生徒会主催の「3年生を送る会」が行われました。会場の体育館は、ステージ上の看板、花飾り、色とりどりのテープなどできれいに装飾され、そこへ紙吹雪が舞い落ちる中、胸に2年生が心を込めてつくったコサージュをつけた3年生が入場してきました。佐野遥斗生徒会長からは「自分たちの目標となり、私たちを支えてくれた3年生に、在校生の感謝の思いを形として届けたい」とのあいさつがありました。オープニングの生徒会本部役員による寸劇では、コロナウイルスくん、炭次郎くん、ピエンくんなどが登場したり、人気グループのダンスや、人気ゲームの場面があったりして、緊張気味の会場を一気に笑顔にさせてくれました。そして、3年生の3年間の思い出を綴るスライドが流されると、3年生の目はスクリーンに釘付けになり、懐かしい思い出に浸っているようでした。入学当時から現在までを写真で振り返ると、この3年間で体も心も大きく成長したことを改めて感じられたと思います。司会の望月玲さんから



「(コロナのために10周年の行事ができなかったけれど、)10周年の記念イベントをすること以上のものを、日々の生活の中で創り上げてくれたと思います。本当に3年生の力ってすごい。南部中の顔にふさわしい姿です。」とのコメントがあり、まさにその通りだと感じました。転出された先生方からのビデオメッセージもありました。例年だと在校生からの合唱や呼びかけがあるのですが、コロナ対策のため、今年度は1A、1B、2A、2Bの各クラスからの感謝の気持ちを込めたメッセージ動画が流されました。そして、全力応援!3年生を取り囲み、応援委員をリーダーに1・2年生全員が気持ちを一つにして、エールを送りました。応援委員はマウスシールド、他の生徒はマスクをつけてのエールでしたが、生徒たちの目や体から必死さが伝わってくる応援でした。早朝や放課後の練習によって気持ちを一つにすることができた成果です。記念品贈呈では、合格祈願と感謝の気持ちが込められたるまのメッセージカードとお守りが3年生に渡されま

した。お守りは1・2年生が布を縫って形を作り、「南中魂」と書かれた札がついていて、中には見頃を過ぎても花びらが落ちないことから合格祈願になるマーガレットの種が入っているそうです。

会の最後に、3年生から1・2年生へのメッセージと合唱がありました。遠藤楓乃さんから「私たちは、自分と仲間の幸せを第一に考えて行動してきました。後輩がいたからこそ、先輩としてふさわしくあろうと思えました。今日は、卒業式のつもりで歌います。最後で最高の合唱です。」との言葉があり、一年ぶりに体育館に「校歌」が響きました。そして、2年生の時の輝城祭で歌った「リフレイン」を聴かせ



てくれました。マスクをつけての歌声でしたが、後輩に何かを残そうとする思いのこもった合唱でした。佐野遥斗会長の「先輩たちがつなぎ、築き上げてきたことを絶やさず、さらにより良い南部中をつくっていきます。11年目の南部中は私たちにまかせてください」との言葉の後、花道を3年生が退場していきました。3月11日の卒業証書授与式に1・2年生は出席できません。この日がまさに、3年生と1・2年生との間で行われた「卒業式」でした。

## 食事の大切さを学ぶ

2月10日、4校時に1年生、5校時に2年生が、「食と健康を考えよう」というテーマで食育の授業を受けました。講師は、町内の小中学校の給食の献立を考え、調理員さんと協力して給食を作ってくれている末木絢奈栄養教諭です。「中学生にはどのような栄養がどれだけ必要なのか。」「糖質、脂質、タンパク質、カルシウム、ビタミンなど、それぞれの栄養素はどのような働きをしているのか。」「健康を維持するために食事で気をつけておきたい2つのポイント」など、スライドを使って生徒たちに教えてくれました。バランスの良い食事のモデルが「給食」です。生徒たちにとって、毎日の給食からより良い食生活や健康維持について考える機会となりました。



## 3学年最後の授業参観と学年PTA

2月10日の午後、3年生の最後の授業参観を行いました。感染症対策で密を避けるため、A組はランチルーム、B組は蒙軒ホールで行いました。「自分の生まれた日、つまり誕生日に特別な名前をつけるとしたら、どんな名前をつけるのか。」という問いを生徒たちに考えさせていました。最初は、「みんなから祝ってもらえる日」「プレゼントをもらえる日」などと答えていた生徒たちでしたが、読み物資料を読み、自分がうまれるときの母親の気持ちや苦しさ、家族の思いを考えたとき、「感謝を伝える日」「ありがとうの日」など、まったく違った名前を考え出していました。誕生日を通して命の尊さについて深く考えることができたようです。授業の最後にサプライズで、お母さんやお父さんからの手紙が一人一人に渡され、読みながら涙している生徒の姿が印象的でした。とても素敵な授業でした。

授業参観の後には、まとめの学年PTAが行われました。たくさんの保護者の皆様に出席していただき、ありがとうございました。



## 大木先生 授業アシストありがとうございました

昨年度から本校は正式な「連携型中高一貫教育校」となり、身延高校、身延中学校との連携を強めてきました。その中心的な柱が「アシスト授業」です。中学校から高校へのアシストは、英語の飯島健太教諭、数学の深澤良人教諭が、臨時休業後の6月から9月まで実施しました。反対に、身延高校からは、主幹教諭の大木賢一先生が、6月から11月までは3年生の数学の授業に（週3クラス×2時間、合計6時間）、12月からは2年生の数学の授業に（週2クラス×2時間、合計4時間）入って、2・3年生の学習をサポートしてくれました。3年生に実施したアンケートによると、98%の生徒が「とても役に立った」「役に立った」と回答しており、「先生が複数いることで質問しやすい」「高校の数学の内容を教えてもらった」「解決のためのヒントを教えてもらった」などの感想が書かれていました。大木先生は、高校でも授業を担当しながら、火・木曜日の午前中は本校にやってきて中学生の授業をサポートしてくれました。2月18日で、大木先生によるアシスト授業は終了しましたが、6月から合計すると134時間にもなりました。本当にありがとうございました。

